



食育活動のご紹介と第5次計画に向けて

2025年9月吉日

食品産業中央協議会 副会長
カゴメ株式会社 代表取締役社長
山口 聡

Contents

1.食育活動のご紹介

2.第5次計画に向けて



1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

(2)植育から始まる食育



1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

2020年1月から、「野菜をとろうキャンペーン」をスタート



【野菜摂取**意識**】

なぜ

野菜をとるのか

どれくらい

とれば良いのか

【野菜摂取**行動**】

どうやって

とれば良いのか

いつまで

とり続けられれば良いのか

1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

【野菜摂取量 推定機】 **ベジチェック**®

自分の野菜摂取量を確認することができ、野菜摂取意識が向上



累計測定回数(2024年末)

1,300万回

ベジチェック体験後に、

野菜を摂ろうと意識した人の割合

※出典：A社測定後アンケート結果

89%

1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

【野菜摂取推進プロジェクト】

より大きなムーブメントにしていくために、19の賛同企業・団体とともに活動

AsahiKASEI
旭化成ホームプロダクツ

Disney
HEALTHY-TAINMENT

ANA

ABC Cooking Studio

ONO 小野薬品

OMRON

全農
ZEN-NOH

ANA

大和総研
Daiwa Institute of Research

タ本のタキイ

東急

MEITETSU

Orchestrating a brighter world
NEC

Panasonic

Benesse

星野リゾート

YANMAR
MARCHÉ

LE CREUSET

ROHTO

自然を、おいしく、楽しく。
KAGOME

(2025年4月時点)

1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

【野菜摂取推進プロジェクト】

コラボ企画やオウンドメディアによる情報発信を継続して実施
(2024年は、延べ4,900万人に対して情報発信)

AsahiKASEI 旭化成ホームプロダクツ × 自然を、おいしく、楽しく。 KAGOME

冷凍トマトを活用! Ziploc

旬のトマトの冷凍貯金で
使いたい時に
美味しく、便利に

れいちょくマ

冷凍トマトとたまねぎのマリネ

QRコード

↑おうちで簡単に

© Ziploc/ジップロックは旭化成ホームプロダクツ株式会社の登録商標です。

OMRON × 自然を、おいしく、楽しく。 KAGOME

カゴメとオムロンが応援!
トマトジュースと血圧計で
健康習慣をはじめよう!

カゴメトマトジュース

血圧を測る習慣

毎日ご家族で、正しい血圧を測る習慣を!

トマトジュースと血圧計プレゼント!
Wフォロー&リボストキャンペーン!

セットで30%に相当!

1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

【野菜をとろうフォーラム】

2024年より、野菜摂取推進プロジェクト主催のフォーラムを開始



(2025年の「野菜をとろうフォーラム」開催)

- 日時：2025年7月21日（月・祝）
- 場所：イイノホール（霞が関／虎ノ門）
- 内容：

- ① パネルディスカッション
- ② 基調講演
- ③ プロジェクト活動パネル
- ④ ベジチェック

■ 対象者：一般招待客250人＋各社関係者

主催：野菜摂取推進プロジェクト

後援：農林水産省、厚生労働省



1.食育活動のご紹介

(1)野菜をとろうキャンペーン

【野菜の上手な摂り方を発信】

カゴメの管理栄養士が行動変容をサポート



健康セミナー



特定保健指導



タイトル：KAGOMEの管理栄養士さんに聞く
「野菜の賢い食べ方」
出版社：（株）KADOKAWA
価格：1,570円

1.食育活動のご紹介

(2)植育から始まる食育

しょうくい 植育から始まる食育

よろこびを、一から土から。



野菜を栽培する、収穫する、調理するといった一連の“植育”体験は、自然や食への知的好奇心や感謝の気持ちを育み、生きる力を養う“食育”につながる

植える・育てる

収穫する

食べる・知る・続ける

KAGOME
りりこわくわく
プログラム

おいしーい！
野菜チャレンジ

KAGOME
野菜生活 Farm.

1.食育活動のご紹介

(2)植育から始まる食育

【凜々子(りりこ)わくわくプログラム】



- 全国の小学校や保育園などに、トマト苗(凜々子など)を無償で提供
- 子どもたちの「命への関心」と「感謝する心」を育み、野菜好きのきっかけに
- これまでの苗配布数：438万本（2024年1月時点）



1.食育活動のご紹介

(2)植育から始まる食育

【おいしい！野菜チャレンジ】



- ・ 放課後NPOアフタースクールと協働した子どもの野菜嫌い克服を目指すプロジェクト
- ・ 野菜を好きになる“きっかけ”となる体験型の食育授業を展開
- ・ 2025年も全国95ヶ所で開催、体験児童数14,000人突破(2024年末時点)



1.食育活動のご紹介

(2)植育から始まる食育

【野菜生活ファーム富士見】



- ・ 長野県にある体験型の“野菜のテーマパーク”
- ・ 野菜収穫や工場見学、地元野菜を使った料理が楽しめるレストラン
- ・ 2024年は、約39,000人が来場

(外観)



(レストラン)



(トマトの収穫体験)



(工場見学)

2.第5次計画に向けて

(1)食育が直面する課題

(2)今後の取り組みの方向性



2.第5次計画に向けて

(1)食育が直面する課題

若い世代の食育への関心の低さ

- ・20代男女の食育への関心度が低く、バランスの取れた食事を摂っていない人の割合も高い。

朝食欠食率の増加

- ・子どもや若者の朝食欠食率が上昇傾向にあり、生活習慣病予防の観点からも問題視されている。

供食(家族・地域との食事)の減少

- ・家族や地域での「共食」の機会が減少、食を通じたコミュニケーションや文化の継承が難しくなっている。



2.第5次計画に向けて

(2)今後の取り組みの方向性

ライフステージに応じた食育の充実

- ・幼児期～高齢期までにわたる「年齢やライフスタイルに応じた食育プログラム」の開発。
- ・学校教育に加え、家庭・地域・職場など多様な場での食育の展開。

デジタル技術の活用

- ・アプリやオンライン教材を活用した食育コンテンツの提供。
- ・AIなどの活用による「食の見える化(栄養バランスなど)」の仕組み開発と普及。

地域コミュニティとの連携

- ・地域の農業者などと連携した体験型食育の展開。
- ・地域の食文化を継承する活動の推進。





ご清聴ありがとうございました。

